

「中学生」は、中——生徒。

仲介 指頭を上へさした右手の親指を口許にして、それを右へさし出しては口許に返らせ往復すること二三度、二人の間に立って口を利き合うこと。

忠告 (イ) 注意する——よろしい——云う。(ロ) いけない——やめる——よろしい——云う (ハ) 怠ける——いけない——云う。等々、一々事によつて具体的に手まねする。

仲裁 「まアまア」とばかり両手で制止するように仕える身振りして、「仲介」と同じ手まねをする。

中止 「やめる」と同じ手まね。

忠実 真面目（一生懸命）——正直。

中断 その前——中止。

中途 「まだ」と同じ手まね。

注文 買う——約束云う。

蝶 五指の指頭を前方にさし掌を下に向け

た両手を左右にならべ、互の親指を曲げて、つなぎ合わせて両手の掌を交互に上下に動かす。蝶の羽根を表わしたもの。

調印 決定——捺印（左手の掌の上に右手の彎曲した五指の指頭をつけ、大きな印判を押す真似）

調合 両手夫々の人差指と親指で輪をつくり試験管を持った心持で、右手試験管から左試験管に注ぎ入れ、左手の方を振って混ぜ合わせる身振。

調刻 左手にのみを持ち右手で槓を持った手の姿態をして、少し身体を斜めによじらせてのみを打って木を彫る身振。

吊辞 「悲しい」の手まねをして、両手で巻紙を左右に開いて行く身振りして読む（云う）

長所 よ美しい——性質。

長女 初め（第一）——生れる——女性（葉

指)

頂度 「一致」「同じ」と同じ手まね。

ちよつと 「少し」と同じ手まね。

帳場 事務一部屋(或は「所」)

長男 初め(第一)―生れる―男性(中指)

帳面 掌を上に向け五指の指頭を右にさした左手、その指頭に掌を左側にし五指の指頭を上をさした右手の手首をつけ、その右手を横に長い帳面の表紙のつもりで、左手の掌上に合わせる(表紙を閉じる)大形の帳面を表わすには、掌を上に向け五指の指頭を右にさした左手の指頭に、掌を左側にし五指の指頭を上をさした右手の腕の肘をつけ(右手の肘までを表紙として)表紙を閉じるつもりで、右腕を左腕の上に重ね合わせる。

著名 「名高い」と同じ手まね。

地理 「地球」と同じ手まね。

沈黙 指頭を上をさした人差指で口を塞ぎ。

ツ

遂に 「終り」と同じ手まね。

就いて 「しに關して」の意味であるから

「關係」の手まねをする。

通学 学校―往き帰り(指頭を上をさした人差指を学校を表わした位置へ左右に往復させる。)

通勤 工場―往き帰り

通訳 役所

通用 「仲介」と同じ手まねをする。

通用 (イ) 金銭の通用。「高い」と同じ要領で金銭を表わした両手を上下にして交互にぐるぐると廻わす。(ロ) 世に通用する。「叶う」「適する」と同じ手まね。